

男女平等推進
from
むさしの

まなこ

知っておきたい
リプロのこと



ライフステージに合わせたリプロの知識が大切です	P. 2
世代トピック 思春期 自分を大切に	P. 5
成熟期 自分で先回りしてたくさんの味方を見つけてほしい	P. 5
更年期 見落とされがちな男性の更年期障害	P. 6

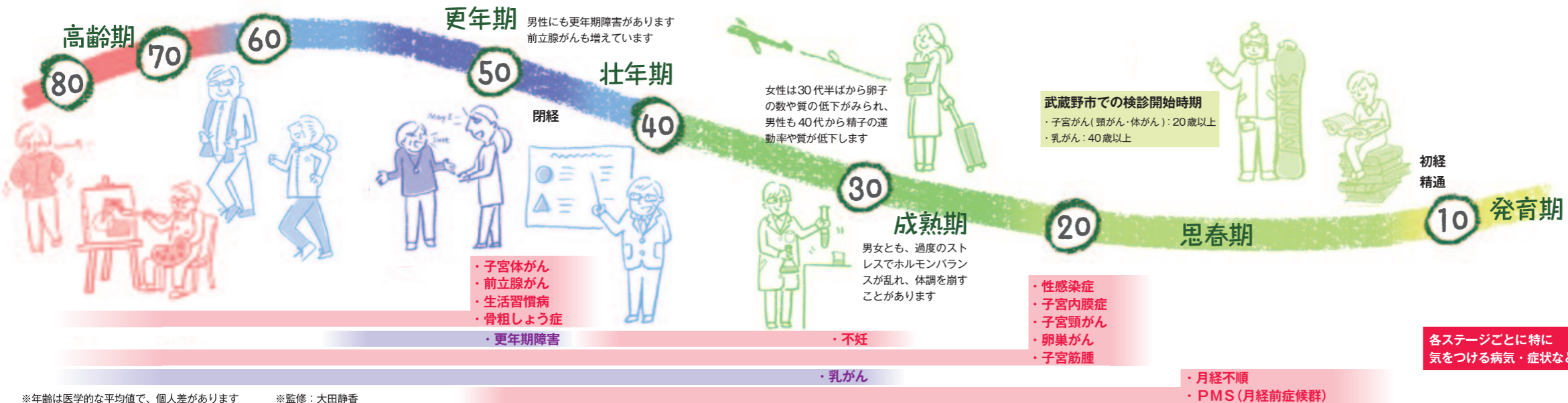
知っておきたいリプロのこと

からだと未来を大切にするために

私たちが、生涯を通じて心身ともに健康な生活を送るためにはどうすればよいのでしょうか。昨年4月に施行された「武蔵野市男女平等の推進に関する条例」の基本理念の一つとしても盛り込まれているリプロダクティブ・ヘルス/ライツ(以下、リプロ)について考えてみました。

*** 武蔵野市男女平等の推進に関する条例**
「第3条(5)全ての人が、それぞれの性を理解し、及び尊重し合うとともに、リプロダクティブ・ヘルスに關する権利及びセクシュアル・ライツを認め合い、生涯にわたり健康な生活を営むことができること」

ライフステージマップ



ライフステージに合わせたリプロの知識が大切です

まだまだ知られていないリプロについてライフステージごとにどのような知識が必要か、武蔵野市助産師会会長の大田静香さんに伺いました。

ライフステージにおける体の変化

●思春期

思春期は、月経リズムがまだ整わないため、月経痛や月経不順などトラブルはつきものです。そのため、悩みのある場合は、早い時期からかかりつけ医を持つことが安心につながります。婦人科を受診する場合、病院によっては、医

師の診察の前にまず助産師や看護師によるカウンセリングがあり、いきなり内診台に乗るのではなく、お腹の上から超音波で調べることができるので、問い合わせてみてください。月経痛がひどい場合に、ごくまれに子宮や卵巣に異常があることもあります。若いうちから低用量ピル(経口避妊薬)を使うことで卵巣機能を整え、将来妊娠したいときに良好な状態で妊娠できるといってもあります。思春期



大田静香さん

助産師。武蔵野市助産師会会長。地域で出張助産院を営むかたわら、市の委託を受け、妊婦訪問、「こんにちは赤ちゃん訪問」、乳幼児健診、その他各健診事業、育児相談、母親・両親学級等を担う。都内で小・中・高校生を対象とした「いのちの授業」一般・保護者向けの「性と性」に関する講座の講師を務める。また市内のクリニックにて思春期相談、母乳相談、育児相談なども行っている。

世代の子を持つ家庭では、月経が始まる前から生理用品の使い方を教えたり、月経が始まったら、ナプキンやおりものシートの減り具合を確認する、おりものの色をたずねるなど、大人が気にしてあげると安心につながり、相談もしやすくなります。

性的成熟が早まっていますが、十分な知識もなく性行為をしまつと、望まない、予期せぬ妊娠

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(リプロ)とは?

1994年にエジプトのカイロで開催された国際人口開発会議において「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(以下、リプロ)という概念が提唱されました。リプロとは、人間の生殖システム、その機能と(活動)過程のすべての側面において、単に疾病、障害がないというばかりでなく、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態にあり、子どもを産むか産まないか、いつ産むか、何人産むかを決める自由・権利があるということに意味します。誰かに強制されるのではなく、産むか産まないかを自分で選択できることは、一人ひとりの権利です。また、多様な生き方やセクシュアリティが尊重され、すべての人が生涯にわたって心身ともに健康に過ごすために不可欠なものとしてリプロが存在します。

●成熟期

思春期に30万個あった卵子数は、37歳ごろには1〜2万個にまで減少するといわれています。医学的には、20代から30代半ばが妊娠・出産にふさわしい時期といえますが、晩婚化が進み、武蔵野市でも初産年齢が高まる傾向にあります。

結婚をするかしないか、子どもを産むか産まないかは個人の選択に委ねられるべきです。しかし出産や育児にしても、「いつまでも産めると思っていた」「産んでみて初めて子育ての大変さを知った」「もっと早くから不妊治療を始めればよかった」という声が聞かれます。

20代でも不妊に悩むケースはありますし、原因が分からないことも多いです。高齢出産となると、妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・染色体異常が発生するなどのリスクが高くなります。東京都では35歳未満の既婚者を対象に不妊検査等を受けた場合の助成も始まっています。卵子の状態や婦人科疾患など、この時期の体についての知識を得た上で、ライフコースを考えるべきでしょう。

20代で子宮頸がん、30代で乳がんの罹患率も上がるので、20歳になったら婦人科検診を受けてください。婦人科疾患は初期の自覚症状がなく、出血して受診するところには病気が進行してしまっていたということもあるので、妊娠・出産を考えていなくても定期的に検診を受けることが大切です。



が、夫婦ならではのコミュニケーションシヨンは性生活にもあります。体の変化や婦人科疾患に気づくこともあります。閉経後は膈の分泌物が減るため膈炎になりやすかったり、性生活がすくなくなったりします。パートナーの有無にかかわらず、人に話にくい内容もそのつど婦人科で相談してみてください。よしいアドバイスがもらえるかもしれません。また、閉経後も、心身ともに充実した更年期・高齢期を送るためにも、婦人科検診は一生受けることが大切です。

● **更年期**

更年期のめまい・動悸・イライラ・のぼせなどの不調については、気のせいとか、気合が足りないとか言う人もいますが、我慢する必要はありません。更年期症状の治療にはホルモン剤や漢方などがあります。婦人科でいろいろ相談することにより、不安の軽減にもなります。

更年期前から、出産が終わるとセックスストレスになりがちで、夫婦が同志みたいな存在になることが増えてきています。会話も大事です。

● **学校における性教育の大切さ**

ライフコースを自分で決定するためにも、ライフステージにおける身体の変化についてあらかじめ知っておくことが重要です。ところが、初期初歩の学校教育ではステージに合わせた教育がすっぽり抜け落ちてしまっているのです。小学4年生くらいで昔ながらの性教育はもちろんして、「女の子は生理が始まります、男の子には精通があります」と教わります。でもその後は急に受精に内容がうつり、赤ちゃんが産まれますとな

るのです。「精子と卵子はどうやってくっつくのですか？」と子どもが質問すれば「具体的なことは中学校で教えます」という答えが返ってきます。子どもたちはモヤモヤしてパーツと勝手に調べてしまつてよく分からないのにセックスという言葉だけ飛び込んできて、よく分からないまま言葉で遊んでしまつたのです。中学校でも、身体の構造、受精と着床については再度教えますが、セックスについてはあまり触れられないのです。性行為とか性的接触という言葉は出てきますが、それでは子どもたちには全然伝わりません。そのあとは急に性感染症の話になり、予防するためにコンドームをつけましょうとなるのです。そうすると子どもたちは「コンドームってなに？」となり、インターネットなどで検索しますが、正しいつけ方は知らないままです。高校生になったらすでにいろいろな情報が定着してしまっており、正しい知識が入りづらくなつてしまっています。

指導要領に基づいた性教育に限度があるのならば、家庭内で子どもに向き合いたましよう。小さいころから人間の身体の構造を解剖生理学的に教えていけば、恥ずかしくなく自然に伝えられます。反抗期で対話がままならないときは、性を正しく取り上げた本をさりげなく置いておくこともできます。武蔵野市では、思春期の子どもを持つ親向けの講座も開催されていますが、学校・家庭・専門家がこれまで以上に連携して「いのちの教育(性教育)」を進めていくことが必要ではないかと思えます。

誰にも相談できないと悩んでいる方に相談先をお知らせします。

困ったときの相談先

東京都 女性のための健康ホットライン
03-5339-1155 平日 10:00 ~ 16:00

多摩府中保健所 思春期精神保健相談
042-362-2334 平日 9:00 ~ 17:00

東京都 南新宿検査・相談室 (HIV 検査)
03-3377-0811 平日 15:30 ~ 19:00
土日 13:00 ~ 16:30

(公社)日本助産師会 子育て・思春期・更年期
女性のあらゆる相談室
03-3866-3072 火曜 10:00 ~ 16:00

武蔵野市助産師会
www.musashino-kyosanshi.com/

【取材・文】島崎理恵 藤田和香子

● **世代トピック 思春期**

● **自分を大切に**

私は日本の女の子が「自分の未来は自分で決める」と言えるように、行動できるようになればと、中・高・大学生のさまざまな問題と向き合いながら、啓発活動をしているのですが、その中で避けて通れないのが性にまつわる問題です。



櫻井彩乃さん

Torch for girls 代表。大学在学中に同団体立ち上げ、講演やイベントを通して、「自分の未来は自分で決める」と言える女の子が増えるようにと活動を展開。国連やJICAのプロジェクトにも参加している。東京都葛飾区男女平等推進審議会委員、同区女性のための防災対策等検討委員会委員を務める。
https://m.facebook.com/torchforgirls/

「毎月、妊娠したかもとドキドキしているのに、彼にコンドームをつけてと言えない子」「生理中でも性行為を要求されたけど断れなかったという子」「避妊具をつけなかったので、デリケートゾーンがかゆくて、出血している。ネットで調べたら、病気かも?と不安になりつつも、親の目があるからと産婦人科に行か(け)ない子」「避妊に失敗してしまつたら、彼女に緊急避妊ピルを飲ませればいいと、簡単に言う男子」「何歳までに経験しないと、早くしないとやばい!と言ってる子」いろいろなか

ケースがありますが、共通しているのは「性に対する知識の欠如」ということです。避妊をしないということはどういうことかー望まない妊娠はもちろ

ん、性感染症にかかる場合もあるし、性感染症を放置しておくとな妊にながるといリスクもあります。そういうリスクを認識し行動すべきなのに、自分の欲求や興味、関心だけで行動してしまつている子が多すぎるよう

な気がします。そして、リスクを認識するためには、もっと、自分やパートナーの身体について知るべきだと思うのです。構造から始まり、生理って、排卵日って、基礎体温って...と。そうすると、相手の身体を考えられるようになる、思いやれるようになると思うのです。

日本は性教育が遅れているせいとか、性とはいやらしいものというイメージがまだまだあります。でも、そうではなく、性を理解することは生きていくためにとても必要なことで、それが基本になっているのだと分かってほしいです。

今、女の子に一番伝えたいのは、「嫌なこととはちゃんとNOと言う。周りに流されない。安易な選択をしない」ということ。そうして、自分を大切にしてほしいと思います。

【取材】藤田和香子/取材・文 矢後麻美

● **世代トピック 成熟期**

● **自分で先回りして
たくさんの
味方を見つけてほしい**

20代から30代の成熟期となると、キャリアを積み時期と妊娠や出産について考える時期が重なって悩みを抱えることもあるかもしれません。自分の体に起きる変化について知っておくことはキャリアプランを考えるうえでも役立つと思います。正しい情報を集める力を身につけること、そして自ら情報を取りに行く積極的な態度がきつと助けになるはず。

知っておくことでリスクを未然に防げることはたくさんあると思います。私は、仕事のプロジェクトとして関わった「LADY」キャンペーンを通じて取材を重ねたことで、自分の体に対する意識が変わりました。例えば婦人科検診に積極的に行くようになったことです。自治体によっては、検診メニューが豊富に用意されていて、しかも無料なことも。また、30歳頃からは基礎体温をつけるようにもなりました。基礎体温という、妊娠を希望している人が使うものというイメージがあります

が、自分の排卵日や月経サイクルを知ることが体調管理にも役立ちます。例えば生理の日を予測できると事前に準備と心構えができて気持ち的にも安心です。

また、会社の福利厚生制度などを



とのさき 外崎郁美さん

(株)電通勤務 電通ギャララボ代表。国際協力NGOジョイセフとも「LADY」キャンペーンをはじめ、「GIRL meets GIRL PROJECT」など国内外の女の子に向けてリプロに関するコミュニケーション活動を行う。
「LADY」サイト <http://lady.world/>

る、会社での縦や横のつながりをつくり他の人がどのように両立してきたかを聞く、自治体やNPO団体などのサーピスを調べるなど、たくさんの「味方」を前もって見つけておくことも役立つかもしれません。

これまでは、性にまつわる話はタブーなんじゃないかという空気があったと思います。変わってきている感覚があります。それぞれ勝手にタブー視しているだけで、積極的に話せば「そうそう」となる。男女間においても、例えば女性の控え目さや我慢する美德みたいなものは、実はまわりの男性は特に求めているかもしれない。私たちの活動では、男性の同僚や学生も一緒に考えています。それぞれが大切な人と、ちゃんと話をしてみる

ことが大切なのかもしれないですね。そして、何より、何が幸せなのかを押し付けず、それぞれが持つ個性や価値観を尊重する社会であってほしいと思います。

【取材・文】小西美穂子

TOPICS

●武蔵野市男女平等の推進に関する条例ガイドができました

昨年4月に施行した同条例のガイドブックを作成しました。条例の内容を解説しているほか、男女平等を身近に感じていただけるような誌面づくりになっています。市内公共施設に配架しているほか、市ホームページからもご覧になれます。



●東京都女性活躍推進大賞を受賞

市内を中心に多摩地域で多様な人をつなぎ、新たな地元ネットワークを生み出す取り組みを行っている市川順子さん（作ろう！みんな

のジモト Wa-shoi パートナーシップ世話焼き人）が平成29年度東京都女性活躍推進大賞を受賞し、小池百合子東京都知事より表彰されました。



平成30年1月18日(木) 東京都庁にて

●平成30年度男女平等推進団体の登録・更新について

男女平等社会の実現に向けて活動している市内団体を「男女平等推進団体」として登録しています。団体登録をすると、会議室の優先利用や印刷機の利用、補助金、団体交流会などの活動支援を受けることができます。詳細はホームページをご覧ください。

講座レポート

●夜活★むさしのメディア塾 Vol.1
Web 広告とジェンダー表現

日時>平成30年1月26日(金)
19:00~21:00

会場>武蔵野プレイス フォーラム

講師>田中 東子さん(大妻女子大学准教授)

ライフスタイルやメディア環境の変化にともなう双方向の情報発信となった現代にジェンダーの視点を意識して情報を発信、受信することはとても大切です。参加者のみなさんも積極的にディスカッションをされていて関心の高さがうかがえました。



●小さい子どもをもつお母さんのための講座(全3回)

日時>平成30年2月19日(月)、26日(月)、3月12日(月) 10:00~12:00
会場>男女平等推進センター ヒューマンあい 会議室

講師>荻野佳代子さん(神奈川大学人間科学部教授)

ファシリテーター>吉田洋子さん(NPO 法人かながわ女性会議理事長) 子どもはかわいい、育児は楽しいと思いつつも、なぜ私だけが社会と切り離されなければならないのか、自分の現在と未来への不安や不満は家族にも大きな影響を与えます。客観的なデータを見ることで現在の社会における育児の状況がとてよく分かり、参加者のみなさんも熱心に耳を傾け、うなずかれています。そのほかにも、



- ・取材と書くことのレッスン~市民の目で、見て、聞いて、書いて~
- ・シングルマザー座談会(共催:子ども家庭支援センター)
- ・ハタラクカイギ2018 ジモトもワタシもよろこぶ「複業」って?(共催:生活経済課、子ども政策課、高齢者支援課)を開催しました。

相談窓口のご案内 **相談無料 秘密厳守**

4月から女性法律相談がスタートします!

◆女性総合相談

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】 面接・電話による相談
【相談時間】 (1回 50分/予約制)

第1土曜日	①13:00~ ②14:00~ ③15:00~
第2金曜日	①18:00~ ②19:00~ ③20:00~
第4火曜日	①9:00~ ②10:00~ ③11:00~

◆女性法律相談

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】 面接による相談
【相談時間】 (1回 30分/予約制)

第1土曜日	①10:00~ ②10:30~ ③11:00~ ④11:30~
-------	---------------------------------

【申込み方法】 ヒューマンあい窓口または電話にて予約を受け付けます。
【予約受付番号】 0422-37-3410 (木曜・年末年始を除く午前9時~午後10時)

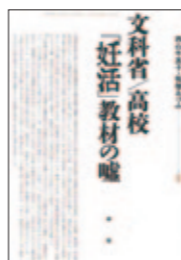
BOOKS

男女平等推進センターの蔵書から 貸し出しています!

文科省/高校「妊活」教材の嘘

西山千恵子・拓殖あづみ 編著(論創社)

高校一年生の保健体育で使用される教材「健康な生活をおくるために(平成27年度版)」に載った「妊娠しやすいグラフ」(現行の教材からは削除済み)の改ざん問題を検証した一冊。グラフの問題を入口に、情報もたらすイデオロギーの要素、特に結婚・妊娠・出産といった個人に委ねられるべき問題への影響とそのリスクを鋭く指摘し、問題提起している。



にも関係していると言われています。日本では、男性の更年期は50歳代と受け止められていますが、医学的な診療対象は40歳以降とされています。男性ホルモンの大部分は睾丸で作られます。加齢とともに睾丸の機能が低下して男性ホルモンの分泌が少なくなるわけです。また、睾丸には精子を作るといっても一つの働きがあります。男性ホルモンの低下とも関連して、加齢とともに精液の量、精子の数・質(動き)が低下し、形が悪化します。精子と卵子の分泌の違いは、精子は思春期から毎日作られ加齢とともに分泌量が減少していきますが、卵子は生まれる



医学博士。順天堂大学医学部附属浦安病院泌尿器科教授。兵庫医科大学卒業後、ニューヨーク大学、大阪大学泌尿器科勤務を経て現職。専門分野は男性学(前立腺疾患、排尿障害、男性不妊症、性機能障害、男性更年期障害など)、男性ホルモンとメタボ因子との関連性、ロボット(ダヴィンチ)支援腹腔鏡下手術など

までに既に体内で作られ、その後は加齢とともに減少していきます。男性ホルモンの減少を老化現象ととらえて、仕事を頑張れる人や自覚がないまま過ぎてしまふ人はそれで問題ありません。ただ、仕事上のプレッシャーやストレスで男性ホルモンが通常より急激に減り、日常生活に異常が現れてはじめて、更年期障害に気づく人もいます。日常生活の中でおこる更年期の

逆効果になるおそれもあります。そんなときは家族の思いやりが一番です。性生活については、個人差もあり大変難しい問題です。今の日本の特徴として、決して仲が悪いという訳ではないのですが、婚姻関係にある夫婦の45%がセックスストレスと言われています。更年期になって男性ホルモンが減ると性欲が落ちます。また、仕事がうまくいかないとセッ

更年期を迎え、パートナー間で相手を気遣うのは大事なことで、男性も女性もありません。ただ、精神面で落ち込みやすいのは男性に多いようです。うつや仕事がうまくいかないと、家族が本人のつらさを理解せず、仕事をさぼっているのではないかと、上司とうまくいっていないなどになるのは最悪です。励ますことは大切ですが、励ますぎないこと。本人はつらいので、休みがちのときに叱咤激励されるのは逆効果になるおそれもあります。そんなときは家族の思いやりが一番です。

若いころから仕事の能率を気にする人は更年期を気にしやすいタイプと言えます。軽ければ自然に許容するのが一番で、強く現れたら医療機関に行つて相談することです。更年期を迎え、パートナー間で相手を気遣うのは大事なことで、男性も女性もありません。ただ、精神面で落ち込みやすいのは男性に多いようです。うつや仕事がうまくいかないと、家族が本人のつらさを理解せず、仕事をさぼっているのではないかと、上司とうまくいっていないなどになるのは最悪です。励ますことは大切ですが、励ますぎないこと。本人はつらいので、休みがちのときに叱咤激励されるのは逆効果になるおそれもあります。そんなときは家族の思いやりが一番です。

男性更年期障害の主な症状

- ・疲れやすい
- ・肩こり、筋肉痛
- ・火照り、発汗
- ・体温調整ができない
- ・太りやすくなる
- ・骨粗しょう症
- ・ゆううつになる
- ・不安な気持ちになる
- ・怒りやすくなる
- ・眠りが浅くなる
- ・パニックになる
- ・性欲の減退
- ・性的機能の衰え

※取材をもとに作成

「取材」文 大久保 力

~からだと未来を大切にするために~

●世代トピック 更年期

見落とされがちな男性の更年期障害

女性に特有な症状と思われるがちな更年期障害ですが、実は男性にもあります。男性更年期障害を専門とする辻村晃さんに伺いました。

女性の更年期障害については、多々論じられていますが、男性の更年期障害は意外と見落とされています。これは、海外では以前から問題視されてきましたが、日本では、2000年以降新しい問題としてマスコミで取り上げられ徐々に広がってきました。女性が閉経を契機に女性ホルモンが急激に減少するのと同様に、男性も20歳を超えると男性ホルモンの分泌が減り、体調、バランスが悪くなります。また、最近の情報として、男性ホルモンの働きは、骨、筋肉、血管などをつくることに影響を及ぼすだけでなく、認知症にも関係していると言われています。

更年期を迎え、パートナー間で相手を気遣うのは大事なことで、男性も女性もありません。ただ、精神面で落ち込みやすいのは男性に多いようです。うつや仕事がうまくいかないと、家族が本人のつらさを理解せず、仕事をさぼっているのではないかと、上司とうまくいっていないなどになるのは最悪です。励ますことは大切ですが、励ますぎないこと。本人はつらいので、休みがちのときに叱咤激励されるのは逆効果になるおそれもあります。そんなときは家族の思いやりが一番です。

若いころから仕事の能率を気にする人は更年期を気にしやすいタイプと言えます。軽ければ自然に許容するのが一番で、強く現れたら医療機関に行つて相談することです。更年期を迎え、パートナー間で相手を気遣うのは大事なことで、男性も女性もありません。ただ、精神面で落ち込みやすいのは男性に多いようです。うつや仕事がうまくいかないと、家族が本人のつらさを理解せず、仕事をさぼっているのではないかと、上司とうまくいっていないなどになるのは最悪です。励ますことは大切ですが、励ますぎないこと。本人はつらいので、休みがちのときに叱咤激励されるのは逆効果になるおそれもあります。そんなときは家族の思いやりが一番です。

クスのへの関心も薄らぎます。そんなとき、パートナーへの配慮が大切になってくるのです。性生活においても、外で仕事や趣味をバリバリやっている人は、更年期障害で悩む人は少ないようすが、女性も男性も心がけたいことは、お互いにもっと責め立てないことです。これは日常生活でも同じですが、性生活においてもパートナーが離れていってしまうことにもなりかねません。医学的な立場から言うと、更年期障害の懸念(自覚)があったら、専門医に相談の上、まず血液検査をおすすめします。その上で、男性ホルモンが低下していたら、ホルモン注射など補充療法を考慮します。また、睡眠を十分とり、適度な運動を行い、栄養バランスの取れた食事を心がけることです。受診する診療科は、泌尿器科がよいと思います。全ての泌尿器科の医者がホルモンのことに詳しいとはいえませんが、うつで心療内科に通い薬を飲んで治らなかった人が、男性ホルモン補充療法でみるみるうつが解消して笑顔を取り戻し、仕事もバリバリやれるようになった人も少なくありません。一度泌尿器科で診てもらつてもよいでしょう。

武蔵野市立男女平等推進センター ヒューマンあい ご利用案内

〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間: 午前9時~午後10時(木曜・年末年始 休館)
電話: 0422-37-3410 FAX: 0422-38-6239 Eメール: danjo@city.musashino.lg.jp

『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見ている！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

平成29年度『まなこ』第3回サポーター会議

101号「どうなってるの？ 男性のワーク・ライフ・バランス」を読んで

ワーク・ライフ・バランスについて、よくわかる内容だった。男性のワーク・ライフ・バランスを推進するためには、意識を変革することが重要なのだとわかった。いままで女性向けのものが多かったため、男性目線でもよかった。長時間労働で女性にシワ寄せがきている構造がよくわかる内容だった。会社の問題もあるが、個人の意識改革も大きいのだなと思った。

「仕事にまい進することは当たり前」という感覚がある人にアプローチするためにも、企業がどのようなワーク・ライフ・バランス推進対策を行っているか、どのような利益が得られているのか示すことも必要なのではと思った。

男性向けの特集記事と小島慶子さんの講演記事が共に掲載されており、どちらの目線も入っていることがよかった。小島さんの言葉がいまでも自分の中に残っており、とても共感できた。

内容は面白かったが、ワーク・ライフ・バランスがとれている人だけをとりあげていたことが気になった。自分の周りにはあまりそういう人はいないため、実態はどうなのかも知りたかった。

身近なテーマで楽しく読むことができたが、ワーク・ライフ・バランスがとれていない人のインタビューなども読んでみたかった。匿名だからこその語れることもあるため、「自分だけじゃない」という安心感が生まれるのではないかな。

その他、今後取り上げてほしいテーマなどについて活発なご意見をいただきました。



平成29年12月 男女平等推進センター会議室にて

団体活動補助金事業を紹介！

「男女の二項対立を越えて ジョルジュ・サンドの自由への軌跡」 日時:平成29年12月9日(土)13:30~15:30
会場:男女平等推進センター会議室 講師:高頭麻子さん(日本女子大学文学部史学科教授) 参加者:40名
共催:桜楓会武蔵野支部・むさしの男女平等推進市民協議会

「大人になって初めて憲法を学ぶ人のための講座」 日時:平成29年12月16日(土)13:30~15:30
会場:男女平等推進センター会議室 講師:野上萌子さん(弁護士) 参加者:21名 共催:生活クラブグループ創/むさしの男女平等推進市民協議会

「家事労働を考える～女性の低賃金と貧困」 日時:平成30年1月19日(金)10:00~12:00
会場:男女平等推進センター会議室 講師:藤原千沙さん(法政大学大原社会問題研究所教授) 参加者:25名
共催:婦人民主クラブ武蔵野支部・むさしの男女平等推進市民協議会

「現代における健康の考え方と健康長寿～男も女も生涯現役を目指そう!～」 日時:平成30年1月27日(土)18:30~20:30 会場:武蔵野プレイスフォーラム
講師:鈴木宏幸さん(東京都健康長寿医療センター研究員) 参加者:28名 主催:日本の歴史と教育を考える会

「親子あそび こどものおと」 日時:平成30年2月4日(日)10:00~11:15
会場:市民会館集会室 講師:林長子さん(元ピアノ講師)、吉田孝子さん(元幼稚園教諭・保育士) 参加者:31組
主催:境おやこひろば

「-じっくり女性史から考える-夫婦別姓・戸籍など 家族のあり方」 日時:平成30年2月24日(土)10:00~12:00
会場:男女平等推進センター会議室 講師:服藤早苗さん(埼玉学園大学名誉教授) 参加者:29名
共催:むさしのジェンダー問題を考える会/むさしの男女平等推進市民協議会

「まなこ」サポーターの200字コラム



リプロダクティブ・ヘルス／
ライツについて思うこと

「リプロ」知りませんでした 久世めぐみ ●中町



子どもが生まれたとき、市の赤ちゃん訪問でみえた助産師さんは明るい方でとても和んだ。家族についての話題で「なんとなく四人家族という型みたいなのがあるだけ。(子どもは一人だっという意見に触れ、自分の中の、きょうだいはいた方がよい、という縛りが少しほぐれた。私たちは無意識のうちに周囲と比較したり合わせてしまう。さまざまな価値観を尊重し合える社会なら、自分の決断にも自信が持てるリプロの意識も高まっていくはずだ。」

女性にとって本当にダイエットは必要か？

富田陽子 ●境南町



育児期真っただ中にいる自分は、女性の根強いダイエット志向に違和感を覚えるようになった。過度なダイエットは妊娠・出産だけでなく、身体が激変しタフさが要求される産後にも、女性ホルモンの減少でトランプが増えがちな更年期にも、悪影響を及ぼしかねない。女性の身体の一生涯は実に変化が多く、上手に付き合うには時に努力も必要だ。痩せている理想、というイメージに惑わされず、健康に身体を慈しんでいきたい。

「リプロ」に関して思うこと 逸見彰彦 ●吉祥寺東町



リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関しては、「産みたくない」「権利問題のほかに、「産みたくても産めない」という問題があるのではないのでしょうか。この「産みたくても産めない」問題には、ひとつには、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学と連続して連なる「我が子」と「家庭」と「教育」とのさまざまな問題があるのではないのでしょうか。この複雑多様な事情の絡み合いの解決が、市民と市政の関係としても重要であると思う。」

Editors' Notes 編集 * 後記

男性にも更年期障害があるなんて…。それも人によって日常生活にかなりの負担がかかるかと思いついて驚き。取材をして初めて知りました。いま思えばそんな人がいたような気がします。(大久保力)

我が子が思春期を迎えるときを想像した。自分と相手を思いやることの大切さは幼児期の今からでも伝えたい。また、教育現場での「タフ感」が少なくなっていることを期待。(小西美穂子)

高校生の息子と、今まで気恥ずかしくて避けてきた性について、今回の内容であるリプロについて具体的に話し合うことができました。読まれた方もそのような機会になればと思います。(島崎理恵)

リプロという言葉にはあまりなじみがなかったが、思春期の子を持つ親としても避けられないテーマ。妊娠・出産期にかかわらず生涯にわたって必要な概念であると感じました。(藤田和香子)

自分の未来を自分の力で切り開いていこうと、力強く、頑張っている女子たちに触れ、日本の将来に明るさを覚ええました。(矢後麻美)

* STAFF *

- サポーター 久世めぐみ 富沢 恵 富田陽子 久富 明美 福島 佐知子 逸見 彰彦 若林 優香
- 企画・取材・編集 大久保 力 小西 美穂子 島崎 理恵 藤田 和香子 矢後 麻美 男女平等推進センター職員
- 編集協力 栗原 毅
- 表紙デザイン ふじわりらわ
- レイアウト 上田 ジュンコ
- 印刷 プリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センターヒューマンあいまで。

*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

◎ 綴じ込み返信はがきで、ご意見やご感想をお寄せください。次号は平成30年7月発行予定です。